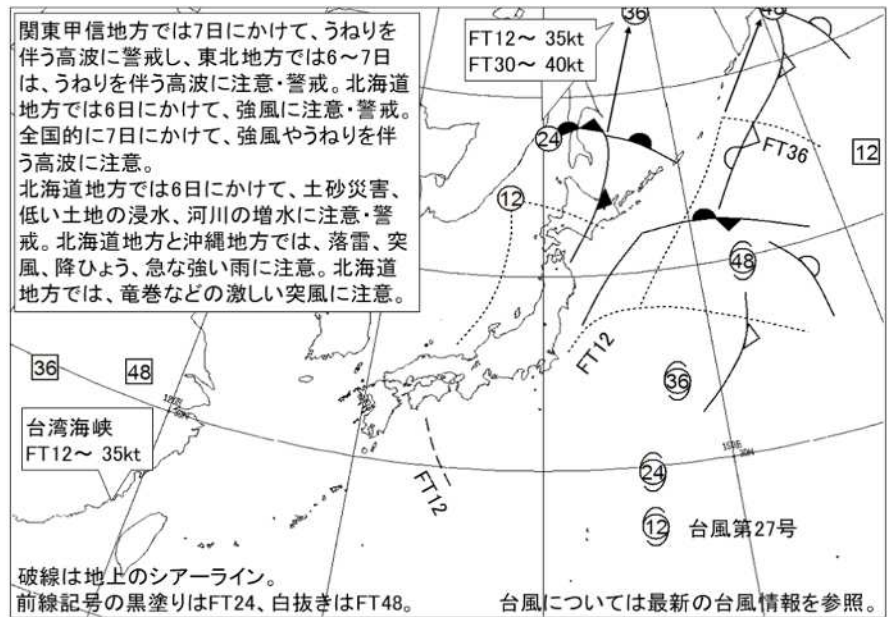


1. 実況上の着目点

- ① 大型で非常に強い台風第27号が小笠原近海を北上。小笠原諸島付近は大しけとなっている。
- ② 前線が、日本の東から日本のほか東にのびている。
- ③ 500hPa 5520m付近で-24℃以下の寒気を伴う寒冷渦がウラジオストク付近を東進。その南側の500hPa 5640m付近の強風軸対応の前線を伴う低気圧が、日本海を北東進し、日本海で発雷。
- ④ 四国の南は気圧の谷で、西日本に降水が広がっている。四国の南では非常に激しい雨を解析。
- ⑤ 大陸から吹き出す寒気に対し、華北付近の高気圧が東シナ海に張り出している。寒気の先端の沖縄近海では、下層暖湿気が上昇して対流雲が発達し、激しい雨や非常に激しい雨を解析。また、風が強く、波の高い所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の台風第27号は、6日朝にかけて非常に強い勢力を保ったまま小笠原近海を北上し、その後は日本の東を北上して、7日は進路を北東に変えて日本から遠ざかる。台風の影響で、強い風や非常に強い風が吹き、波がうねりを伴って高くなり大しけとなる所がある。関東甲信地方では7日にかけて、高波に警戒し、東北地方では6～7日は、高波に注意・警戒。北～西日本太平洋側では7日にかけて、強風や高波に注意。1項②の前線は、台風北側の日本の東を北上するが、降水は海上中心となる。
- ② 6日にかけて、1項③の低気圧が日本海を北東へ進み、前線が北～東日本付近を通過する。また、寒冷渦はトラフとなって、6日はサハリン付近を通過する。低気圧や前線に向かう下層暖湿気、上層寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり雷を伴う激しい雨が降って大雨となる所がある。また、低気圧や前線の周辺では強い風が吹き、波の高くなる所がある。北海道地方では6日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、強風に注意・警戒し、高波、落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。なお、6～7日は500hPa 5640～5760mで-9～18℃以下の寒気を伴うトラフが本州付近を東進するが、地上は高気圧圏内で相対的な下層寒気場内となり、対流雲の発達には限定的。
- ③ 1項④の四国の南の気圧の谷は、6日にかけて次第に不明瞭化する。また、1項⑤の寒気の先端と共に対流雲域も南下する。沖縄地方では6日にかけて、落雷、突風、急な強い雨に注意。沖縄地方では引き続き7日にかけて、強い風が吹いて波が高くなりしける所がある。強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考とする。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(18時からの24時間)：北海道120mm。

②波浪(明日まで)：小笠原諸島8、関東・伊豆諸島6、東北5、その他広い範囲で3～4m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 「台風第27号」を17時頃に発表予定。